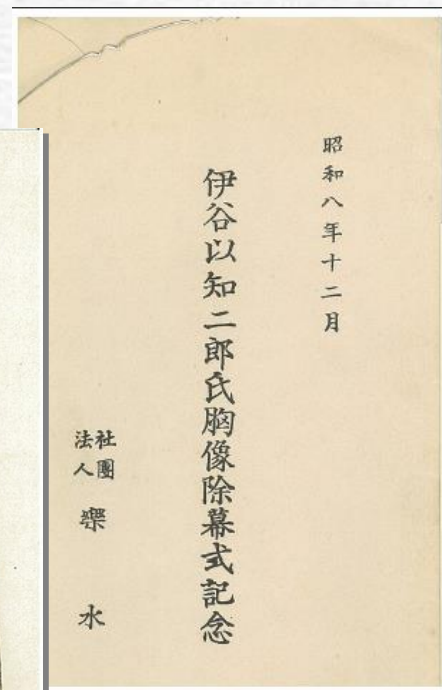
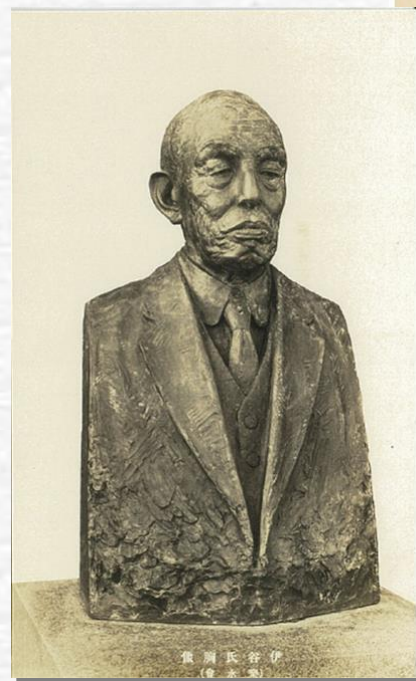
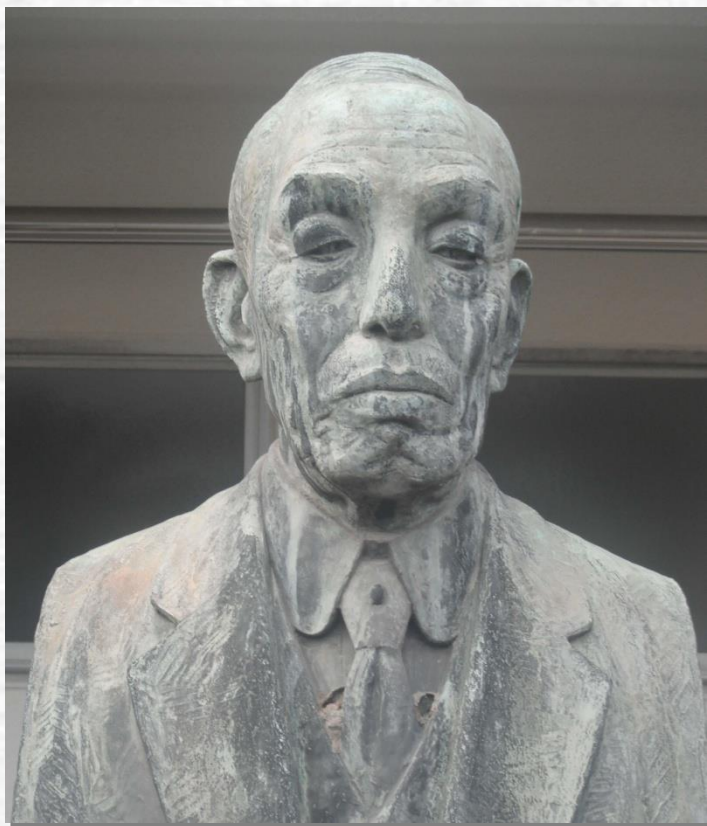


中部講堂前の銅像 その2
伊谷 以知二郎
第三代水産講習所長

東京海洋大学附属図書館
情報サービス係

中部講堂前の伊谷以知二郎銅像



藤井浩祐氏作。昭和8年12月1日に除幕式。

当時の樂水会発行記念絵葉書

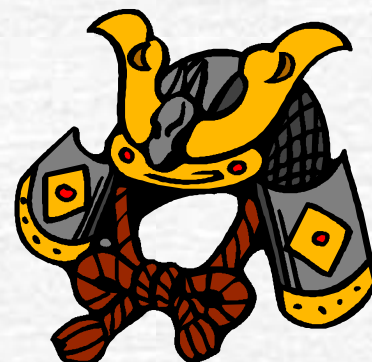
業績

- 業界の大御所、世話役、指導者として水産及び缶詰業界に大きな足跡を残した。伊谷亡き後伊谷なしとまでいわれた偉大な存在。（日本缶詰史より）
- 缶詰製造の指導・助言
- 水産講習所所長として学制改革
- 水産金融改善に尽力
- その他多数



生い立ちから水産伝習所入学まで。

- 1864 紀州藩士田中傳の子として出生
- 15才 三菱商業学校予備科入学
- 18才 同校廃校。独学。
- 20才 伊谷家の家督を継ぐ。
- 21才～23才 「日蓮宗教報」編集人
- 24才 水産伝習所入学。



私生活の苦難

- 父が鉱山事業に失敗し借金返済のため困窮生活。(13才頃～32才頃まで)
- 次々と家族が病に倒れ、亡くなる。(両親、兄弟、3人の妻)
- フロックコートを質に入れ、必要な時は着ている背広を質に入れてフロックコートを出して着た。

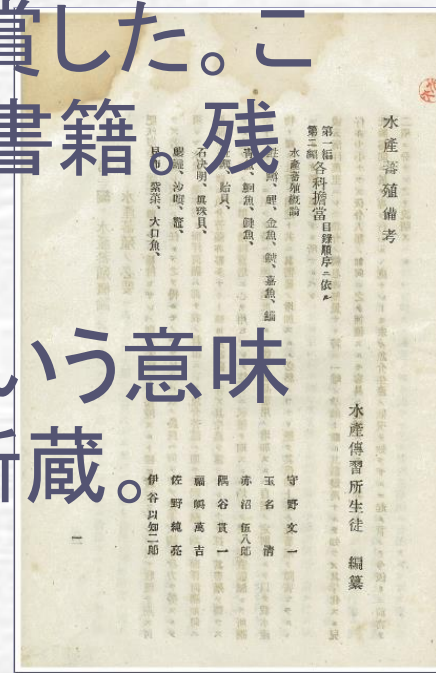
水産伝習所第一期生(入学24才)

- 教師は関沢明清、金田帰逸、河原田盛美、山本由方、内村鑑三など一流の人材。松原新之助が35才の魚類学・養殖担当の教師だった。



水産蕃殖備考 1892

- 水産伝習所の生徒7名が水産養殖について分担執筆。明治23(1890)年の内國勸業博覽會に出品し有効三等賞を受賞した。これを明治25(1892)年に印刷した書籍。残念ながら図版は印刷されず。
- 伊谷以知二郎の在学中の業績という意味で貴重である。本学図書館のみ所蔵。



第一回水産伝習所卒業生記念写真

明治23年2月22日(26才)



内村鑑三

伊谷以知二郎

大日本水産会録事補から水産伝習所



- 26才 大日本水産会で会報の編集。大隈重信、村田保、松原新之助などに接する機会。
- 29才 水産伝習所の寄宿寮舎監。水産伝習所6回生30余名を引率し、千葉県館山で鯨味付缶詰の製造実習指導。
- 30才 水産伝習所製造科講師
- 32才 同主任
- 34才 水産講習所技手



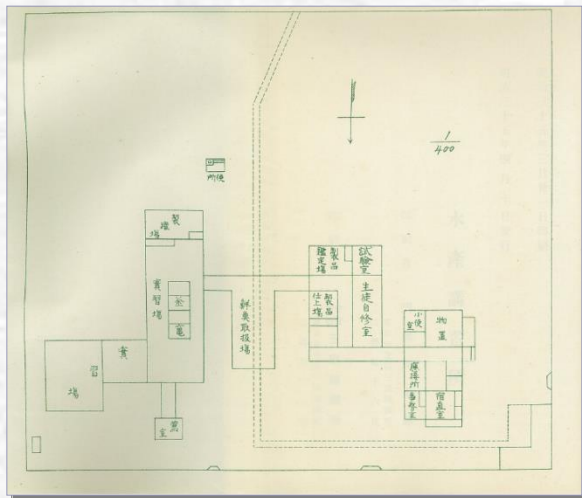
軍用缶詰として鯨缶詰製造(30才)

- 大日本水産会が銃後の報国運動として缶詰献納計画。製造は伝習所生徒が奉仕。材料の提供を一般に呼びかけた。
- 関沢明清氏から槌鯨1頭寄贈。
- 伊谷以知二郎は製造の陣頭指揮。
- 酷暑の館山で2800個の缶詰を製造し勇魚大和煮と名づけて献納。



小田原実習場開所(38才)

- 伊谷以知二郎と内村達次郎が設計した。



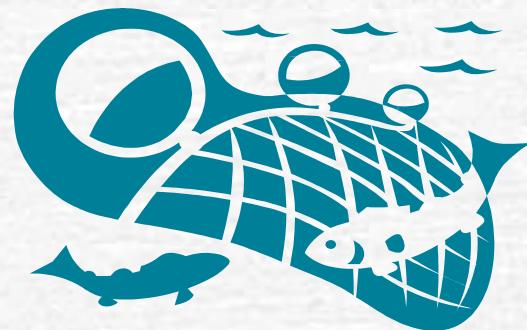
設計図



小田原実習場の写真(大正8年卒業アルバムより)

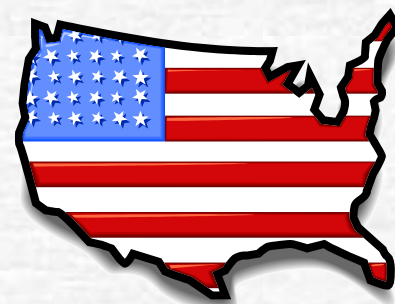
米国セントルイス万国博覧会(40才)

- 審査官として渡米。
- 米国水産事情調査。各地を精力的に見学。
- 日本の水産物をどのようにすれば米国に輸出できるか、取引、販売、冷凍法、経営組織、漁船保険など。



7ヶ月の米国水産事情視察(40才)

- ピッツバーグ(ブリキ製造)
- ノーフォーク(牡蠣缶詰)
- ワシントン(水産局次長訪問)
- バルチモア(カニ缶詰工場)
- ニューヨーク(缶詰工場、魚市場、製氷会社)
- ニューベッドフォード(捕鯨基地)
- ボストン(漁船保険と漁業金融)
- グロースター(タラ肝油製造法)
- ブルックリン(缶詰機械工場)



鰺油漬罐詰製造書(43才)

- 鰺油漬罐詰製造書

伊谷以知二郎, 松尾靈彦[共著]. -

水産書院, 1907

- 水産製造学

伊谷以知二郎著

刊年不明



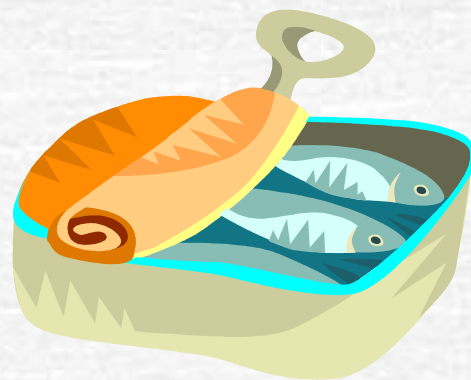
ベニザケ缶詰で賞(45才)

- 藤野辰次郎がカムチャツカ漁業視察で持ち帰ったベニザケを水産講習所に寄贈。
- 伊谷はアメリカでベニザケ缶詰が製造されていることを知っていたので缶詰製造。
- 明治42年、アラスカで開催の太平洋博覧会に出品し大賞牌獲得。
- 後の缶詰輸出の素地となる。



最新缶詰製造全書：実験応用(47才)

- 最新缶詰製造全書：実験応用
伊谷以知二郎, 今井次郎著. -- 日本和洋
酒缶詰新聞社, 1911



大日本洋酒罐詰沿革史 (51才)

- 大日本洋酒罐詰沿革史：附載 洋酒、罐詰、乳製品登録商標

風戸弥太郎編 -- 日本和洋酒罐詰新聞社,
1915 * 第二編の缶詰編を下啓助と伊谷
以知二郎が共編。



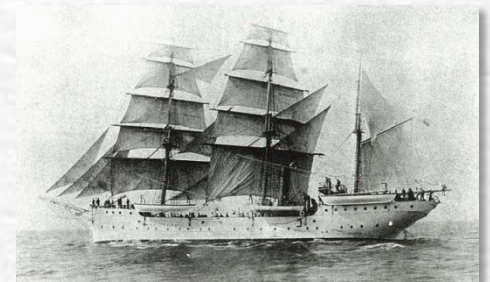
伊谷藻 (51才)

- 伊谷以知二郎の指導により杉浦六彌は樺太遠淵湖産藻類から寒天製造に成功。
- 杉浦はこの藻に伊谷藻と命名。



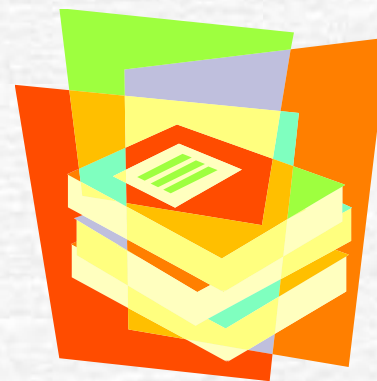
雲鷹丸のカニ缶詰製造試験(52才)

- 大正5年雲鷹丸がカムチャッカ沖でカニ缶詰製造時の冷却・洗浄に海水を利用できることを実証。
- これにより真水の運搬という障壁がなくなり、工船カニ缶詰製造業は急速に進歩。



水産講習所第三代所長就任(53才)

- 同窓初の所長
- 養殖分場設立予算獲得など。
- 学制改革



学制改革(58才)

- 大正8年の学生からの水産講習所内容充実の提案をきっかけとして、具体案検討、成案、予算計上、申請、議会提出、実現。
- 改正要点
 - 修業年限を3年から4年にする。
 - 入学資格を中学4年以上又は甲種水産学校卒業またはこれに準ずるものとする。
- 数学・物理・語学など基礎学科を増加して基礎的学力の充実をはかる。
- 専攻科を設ける。
- 試験部を充実する。

最近水産製造講義(58才)

- 最近水産製造講義

伊谷以知二郎 [ほか] 著 ; 上巻, 下巻. --
裳華房, 1922



関東大震災で校舎全滅(59才)

- 校舎があった越中島地区は火災がひどく、木造校舎は全焼、所蔵図書2万冊、標本なども灰燼に帰した。
- 仮校舎復旧の予算配布を受けて大正13年3月に仮校舎竣工。卒業式を無事挙行。

水産講習所長退職(60才)

- 勸業銀行参与理事就任。
- 水産金融問題の改善のため尽力。

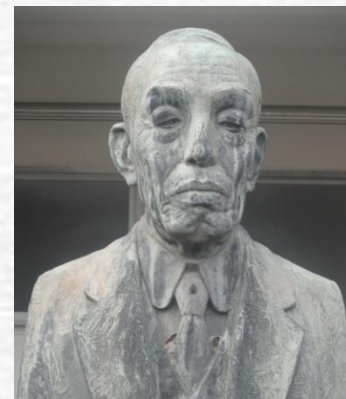


農林審議会委員として答申（68才）

- 農林審議会委員として出した政府諮問第1号に関する答申案の“水産教育の改革”の項で「水産大学を創設すること」答申。
- このことが、この後、様々な紆余曲折を経た後に、昭和24年の東京水産大学発足につながっている。

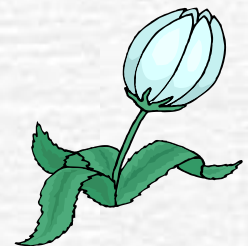
銅像建設(69才)

- 楽水会で建設を決めたが、本人が固辞。
- 何とか説得。
- 帝国美術会員藤井浩祐氏作。
- 昭和8年12月1日に除幕式。



逝去（満72才）

- 昭和12年3月30日 胃がんのため逝去。
- 4月5日赤坂三会堂にて大日本水産会の会葬。1600名もの会葬者による盛大な葬儀が行われ、四谷区南寺町本性寺境内に埋葬された。



人柄 趣味

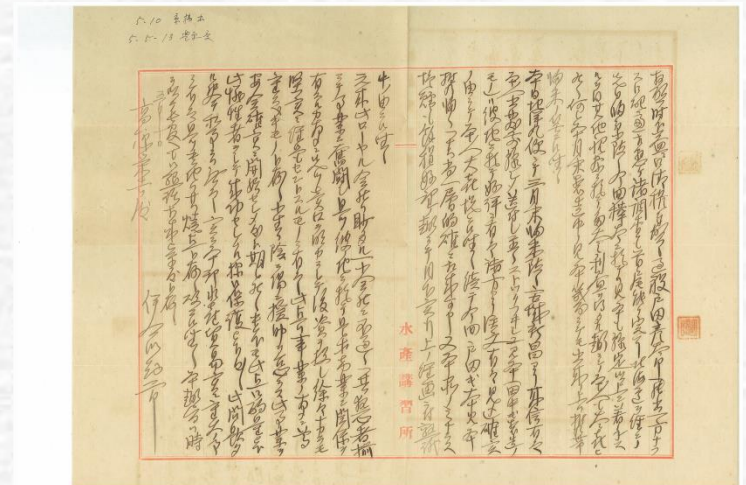
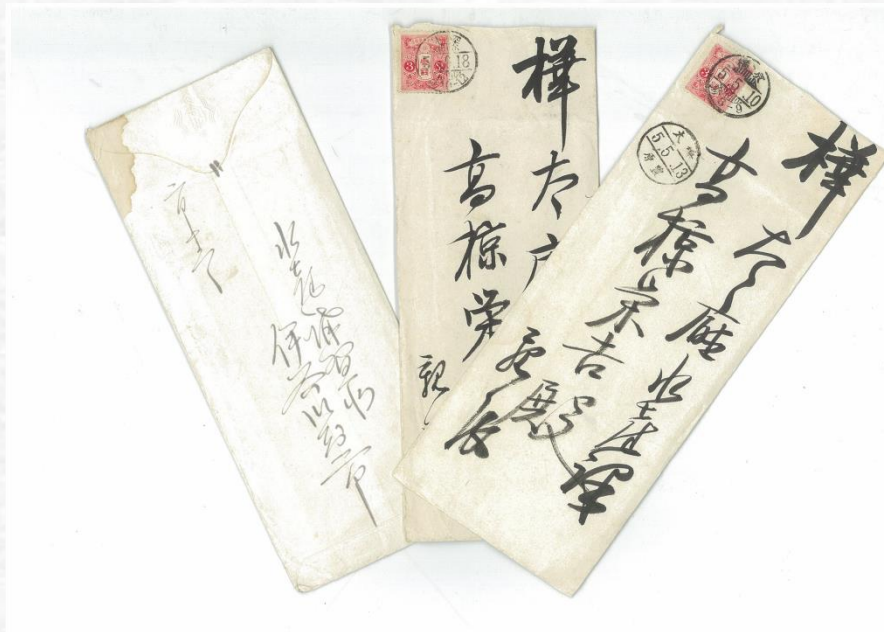
- 清濁併せ呑む。
- 面倒見が良い。
- 粘り強い仕事の進め方
- 庭いじりが趣味。



急いではいけない

- 世の中はなかなか複雑で、思いもかけぬところに暗礁が横たわっているから急いではいけない。決して急いではいけない。ゆっくり回り道して行くほかない、時間がかかってしまったしかたない。

白筆の手紙



第9回卒業生高棕栄吉氏宛て。高棕家より
譲り受け図書館所蔵。



ご清聴ありがとうございました。

*この資料は、2010年12月16日に発表したものを一部訂正して掲載するものである。
訂正部分：伊谷藻のページ、杉浦弥六を杉浦六彌と訂正（2015/6/29）

